

■フランス：パリ近郊の高速道路で照明を廃止、温暖化対策の一環

フランスのエネルギー業界紙は、2010年5月12日、パリ市を含むイル・ド・フランス圏広域道路管理局（DIRIF）が、高速道路を中心に130kmにわたる道路照明を段階的に廃止する決定を下したと報じた。これは今日照明が行われている道路網の約半分に相当する。今回の対策では、照明によるCO₂排出量の45%減と電力消費量の40%減が期待される。運転時の安全性に関しては、照明のない状況において事故率が30%減少したとの事例もあり、照明のない方が注意深く運転する傾向があるとしている。DIRIFは消灯した状態での事故率を2年間追跡調査し、問題がなければ照明設備を撤去する。